

巻 頭 言



滋賀県知事 三日月 大造

世界から滋賀へ、滋賀から世界へ ～人とひとのつながりを通しての国際交流～

滋賀県は古くは東海道や中山道などの主要な街道が通る交通の要衝でありましたが、急速にグローバル化する現代において国際貿易に必要な大洋に面した港湾や世界とつながる空港はありません。そこで、私たちが重視してきたのは人とひとのつながりを通じた国際交流の形でした。

滋賀県は、琵琶湖とのご縁で、現在、米国ミシガン州、ブラジル リオ・グランデ・ド・スール州、中国湖南省の3つの州省と姉妹友好提携を結び、経済・若者・環境などのさまざまな分野で交流を深めてきました。

2018年（平成30年）に友好提携50周年を迎えるミシガン州とは、これまでに両国合わせて3,000人以上に上る親善使節団の相互派遣や900人近くの高校生の相互派遣を行い、友好交流・相互理解を深めてきました。また、彦根市にあるミシガン州立大学連合日本センター（JCMU）では、ミシガン州にある15の州立大学からこれまでに2,000人近くの学生がプログラムを受講しました。これらの相互派遣参加者やJCMUの受講生の中には、ALTとなって再び滋賀県に帰ってくる若者も多く、両県州の友好・交流の発展に一役買っています。

同じく2018年に友好提携35周年を迎える湖南省には、この8月に県民友好交流団、経済交流団、高校生交流団など、県内から総勢約100人の交流団が訪問しました。湖南省長との会談では、友好交流を継続・発展させていくこと、県民・企業の交流と次世代を担う若者の交流を深めていくことなどを確認し覚書を取り交わしました。

また、新たな国際交流の一環としてインバウンド事業にも力を入れています。

滋賀県には、全国第4位の数を誇る国宝・重要文化財をはじめ、たびたび大河ドラマや映画の舞台となる歴史遺産、琵琶湖と山々の織り成す美しい自然、近江牛や鮎ずしなど滋賀の地で育まれた豊かな食材、たくさんの魅力があります。

これらの魅力を「ビワイチ」「おいしが うれしが」など滋賀独自の取り組みや、インバウンド事業を通して国内外に発信し「政治と国境を越えた交流」を推進しております。

「世界から滋賀へ、滋賀から世界へ」の取り組みのひとつとして、先人が築かれた、このすばらしい人とひととの関係、友好交流を未来に引き継ぎ、観光分野などにおける新たな交流も模索しながらより深く広く国際交流への取り組みを進めて参ります。